

令和4年度江の川上流水害タイムライン 第2回検討会 ニュースレター

令和4年12月23日（金）書面開催

令和4年度の出水期を振り返り、防災行動や災害対応の実施状況を確認するとともに、タイムラインの課題や改善策の意見出しを行うことを目的とし、令和4年度第2回検討会を開催しました。

■ R4出水期に関する事前アンケート結果とタイムラインの課題

- 今年度は大きな出水はなかった（レベル0～1の準備段階まで）ため、タイムラインやメール、ポータルサイトの活用場面は少なかった。
- 現状の出水経験では、タイムラインで想定している江の川の破堤氾濫による大規模水害を想定した課題や改善点は出しづらいと感じられる。
- 災害対応時にタイムラインやメーリングリストの内容は活用していない、あくまでも参考情報としているなどの意見があった。
- タイムラインはトリガー情報とならない、自機関の行動項目について現在のタイムライン情報のみでは実施の判断に悩む、などの意見があった。

タイムラインの改善と
課題解決に向けた検証テーマ

① 準備段階の対応について

- 今年度は大きな出水はなかったが、**準備段階における各機関の対応や他機関との連携**において課題・改善点はないか

他地域出水事例や昨年の三次市・安芸高田市における浸水経験などを踏まえ、**大規模水害を想定した準備段階の対応ができていたか**検証

② 連携強化について

- タイムラインを通して得られる**他機関の情報**は十分か
 - 参加機関との情報共有をより強化**するためにはどうすればよいか
- 今年度実施した**オンライン情報共有**（気象台、河川事務所、県、自治体で実施）の有効性やその他の機関の参加について検証

③ 訓練の必要性について

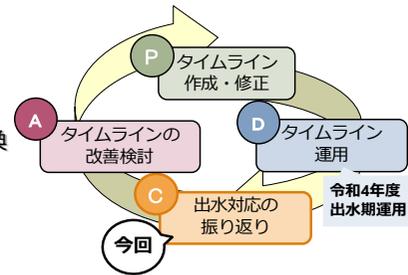
- 江の川の破堤による大規模浸水までのイメージ**ができていないか、そのために**タイムラインや多機関との連携を活用**できないか
- 江の川の堤防決壊、外水氾濫発生までの一連の被害を時系列でイメージしながら訓練**を実施し、課題や改善点を検証

まとめ

- 今年度は大きな出水はなかったものの、多くの機関が**大規模水害に備えた対応を各機関で実施できていた**ことがわかった。
- 今後は、オンライン情報共有や実災害を想定した訓練の実施など、**タイムライン参加機関のさらなる連携強化が必要**と考えられる。

～次第一～

1. 開会挨拶
2. 令和4年度の振り返り
3. 事前アンケート結果
4. タイムラインの改善に向けた意見交換
5. 今後のスケジュール
6. 質疑応答
7. 講評
8. 閉会



■ 検証テーマに関する意見照会結果

テーマ1：R4出水期における準備段階の対応について、R3出水時の教訓や「最大級の警戒（台風14号）」への特別な対応について



気象庁緊急記者会見（9/17 11:00）

- 回答のあった多くの機関は出水経験や事前に発出された情報、気象台からの「最大級の警戒」の呼びかけを受けて**各機関の計画・マニュアルに沿った対応を的確に実施**した。
- さらに必要に応じて**対応を早める、強化するなどの行動**をとっていたことがわかった。

テーマ2：R4出水期に実施したオンライン情報共有の効果と、今後の有効的な実施方法について



オンライン情報共有の様子（R4.9）

- 参加機関からは**効果的と感じられる回答**が多く得られた。但し、全機関が参加するには**会議時間の設定や他河川の会議との調整**が課題として挙げられる。
- 一部の非参加機関からは**情報共有についての希望**が挙げられた。但し、その内容についてどのように伝達するかが課題として挙げられる。

テーマ3：タイムラインの想定シナリオに基づき、平常時から堤防決壊、外水氾濫発生までの被害のイメージと、各段階で発表される気象・防災情報を時系列で整理した動画を用いた訓練の実施について



江の川上流水害タイムライン訓練動画（一部抜粋）

- 実災害を想定した動画を用いた訓練の実施については**概ね賛成の回答**を得られた。但し、**訓練の規模や開催方法については参加機関の要望を踏まえて調整**をする必要がある。